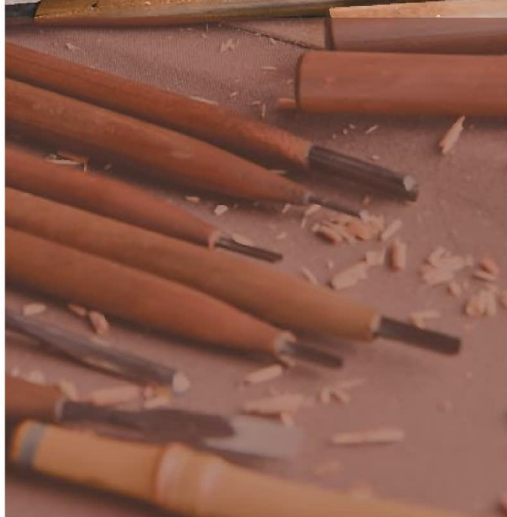


シリーズ・日本の匠と出会う旅③

# 鎌倉彫 「博古堂」を訪ねて



神奈川県鎌倉市の彫刻漆器、鎌倉彫。木地に模様を彫り込み、その上に漆を塗り重ねて仕上げるといった技法は、鎌倉時代に中国から伝わったものです。鎌倉の街の中心にあり、源頼朝によって祀られた鶴岡八幡宮の鳥居脇で100年以上の歴史を重ねている博古堂を訪れ、力強い彫りと、仏師の時代から脈々と伝えられた技をご紹介します。





日本の匠と  
出会う旅③

# 鎌倉彫「博古堂」を訪ねて

彫りから生まれる表情と、漆から生まれる色の深み。

日々の暮らしのなかでも気軽に使って楽しめる漆器が鎌倉彫です。

鶴岡八幡宮鳥居脇で100年以上鎌倉彫りの店舗を構えている「博古堂」を訪れ、  
4代目当主の後藤圭子さんにお話を伺いました。

## 生き残りをかけて仏師から鎌倉彫へ

鎌倉を代表する工芸品、鎌倉彫は、模様を彫刻した木地に漆を塗り重ねて仕上げたもので、彫りから生まれる陰翳と深い漆の色が特徴です。その手法は、今から約800年前の鎌倉時代、仏師が作っていた仏像にさかのぼります。武家の都として栄えた鎌倉には中国から禅宗が伝わり、いくつもの禅寺が建てられました。それによって、寺に納める仏像や仏具をつくる仏師も数多く移り住むようになります。

鎌倉を象徴する鶴岡八幡宮の鳥居脇に店を構えている「博古堂」の祖先も、もとは仏師でした。ところが明治時代の廃仏毀釈によって仕事は激減。多くの仏師たちが廃業するなか、後藤齋宮(1838～1908)と後藤運久(1868～1947)は生き残りをか

け、技術を生かして生活用具である鎌倉彫へと舵をきったのです。1888年には製作された鎌倉彫に「一百年間保証券」を発行。塗りの堅牢さをうたい、もしこれに反することがあれば新品と交換するという画期的な試みでした。翌年はパリ万国博覧会に仏像と鎌倉彫を出品し受賞。そして1900年、現在の場所に店舗を構え「博古堂」と名付けました。1905年にはセントルイス博覧会に275点を出品し、そのほとんどを売り尽くしたそうです。

「うちの先祖はひと言でいえば、したたかなんだと思います」と笑うのは、4代目の後藤圭子さん。

「仏師から鎌倉彫に切り替えてからは、様々な手をうち、かなりの勢いでいろいろなものを作っていたようです。保証券は2000枚くらい印刷した記録があり、父の代のときに『こんなものがあるよ』と



博古堂4代目当主 後藤圭子さん



持ってきてくださったお客様もありました」。

3人姉妹の長女でデザインに興味があった圭子さんは、東京藝術大学工芸科に進み、卒業後に家業を継ぎました。鎌倉時代から続く家業、しかも初の女性当主ということの重圧はなかったのでしょうか。

「継ぐことに対してはそんなに抵抗感はありませんでした。たぶん父から上手に(笑)刷り込まれたのだと思います。画用紙やクレヨンをしよっちゅう買ってきてくれて、描くと誉めてくれましたから」。

## 使えば使うほど味が出る

後藤家の鎌倉彫は、力強い彫りと、その彫りを引き立たせる乾口塗<sup>びくちぬ</sup>りという、齋宮と運久が考案した塗りが特徴です。それぞれの代によって作風はかなり変わっていると圭子さん。

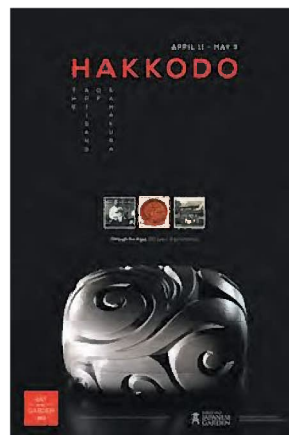
「初代の齋宮が作るものは無骨だけれど神経が通っている感じ。2代目の運久はテクニックがある技巧派。そして3代目の父、俊太郎(1923~2006)は、東京美術学校で学んだ、西洋彫刻の理論を組み込みました」。

現在、圭子さんが担当しているのはデザイン。

「伝統のなかに新しいものがあると思っているので、ぐり唐草や仏像の衣のひだなどをテーマにして、

左ページ・作品上：「菓子器 衣文」、仏像の流麗な衣文を菓子器に。作品下：「文庫 唐草」、V字に深く彫り込むことで唐草模様のうねりをダイナミックに表現。

右ページ・中央上段：後藤圭子作「菓子器 雲」2016年。中央下段と右端：工房での鎌倉彫の「彫り」の作業の様子。柔らかな曲線を美しく彫り上げるのは、熟練の職人技が要る。



2015年、アメリカ・ポートランドで、後藤齋宮、運久、俊太郎と現在の博古堂作品の展覧会が開催された。来場者は25000人にのぼり、関心の高さがうかがわれた。

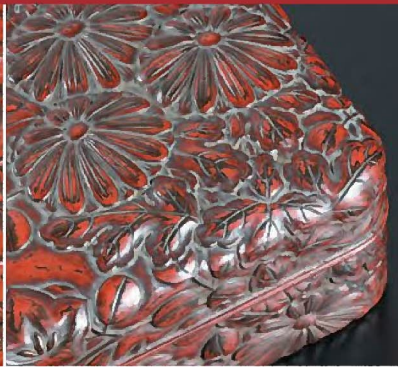
中央・左：初代後藤齋宮、中央・右：2代目運久(手前)と3代目俊太郎。下段：博古堂開店10周年の様子(1910年)。







後藤齋宮作「手割り盆 鳳凰」、明治15~20年。  
鎌倉彫を生業として立ち上げた初代の後藤齋宮の堂々とした作品。



後藤運久作「硯箱 秋草」、明治28年頃。  
使う事を前提として考案された「後藤彫り」の代表的作例。



後藤俊太郎作「飾り顔 楯」、1988年。  
古典の要素を盛り込みつつ、大胆な意匠で新境地を模索した代表作。

デザインや塗りで現代性を出すことが多いですね。最近追いかけているテーマが“雲”です。お寺の装飾に使われていた“飛雲”の断片がうちにあって、それがすばらしかった。雲は季節感もないし、海外でもわかりやすいモチーフだと思うんです(写真P.7上)。

2015年にはアメリカのポートランドで代々の作品展が開催され、大きな反響を得ました。5代目となる姪御さんも入社されて、技術を未来へとつなげていく準備も着々と整いつつあります。

「伝統工芸をつなげていくのがむずかしい時代だと思いますが、ほんとうにいいものを作っていれば、すたれることはないと感じています。漆器の特長は軽くて、器が熱くならないこと。私は毎日鎌倉彫のお盆に器を載せてランチョンマット代わりに使っています。使えば使うほど味が出るものなので、ぜひ気兼ねなくたくさんの方に使ってほしいですね」。



2階は、代々の当主などの歴史的・代表的作品が並ぶ小ギャラリー。博古堂ならではの、大胆で風格のある作品を見ることができる。



ごとう けいこ ● 代々仏師を家業としてきた鎌倉彫後藤家29代で、博古堂4代目当主。東京藝術大学工芸科を卒業後工房に入り、2006年、3代目だった父、俊太郎さんが他界後に初めての女性当主となった。

## もっと深く鎌倉彫を知るために

鎌倉彫の活動拠点として設立された「鎌倉彫会館」。3階の資料館では、室町時代から現代までの名品約50点が展示されています。また、1階の「鎌倉彫カフェ 俱利」では鎌倉彫の器を使って、漆器の普段使いを体感(写真上)。さらに鎌倉彫を体験できる教室(写真下)や、子ども向けの教室も開かれています。



### 鎌倉彫会館

住所 ● 〒248-0006 神奈川県鎌倉市小町2-15-13  
電話 ● 0467-25-1500  
URL ● <http://kamakuraborikaikan.jp/>

## 博古堂

1900年に鶴岡八幡宮烏居脇に開業。当時の著名な文化人や外国人の顧客に支持され、1948年に3代目が株式会社博古堂を設立した。現在は4代目当主の後藤圭子さんのもと、堅牢で使いやすい器を中心に、伝統を受け継ぎながらも現代の新しい形を提案している。



住所 ● 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-28  
電話 ● 0467-22-2429  
営業時間 ● 3月~10月 9:30~18:00  
11月~2月 9:30~17:30  
URL ● <http://www.kamakurabori.org/>